

榛澤郡家(はんざわぐうけ)周辺

中宿遺跡(深谷市)、岡遺跡(深谷市)、岡廃寺(深谷市)、島護産泰神社(深谷市)、熊野遺跡(深谷市)、白山遺跡(深谷市)を訪ねて

埼玉県の岡部町周辺は、奈良時代においては武蔵國榛澤郡と呼ばれ、中宿大型倉庫群跡はこの榛澤郡の役所(郡衙)の一部とされ、周囲には郡庁・厨屋・館等の諸施設が展開していたという/図の中央に榛澤郡/その右手には幡羅郡が存在した



郡家の構造

郡家^{ぐんけ}とは、郡役所のことで、学術的には郡衙^{ぐんが}と呼ばれることもあります。郡家の主な施設には、正倉・郡庁・館・厨家があります。

正倉^{しょうそう}

税として納められた稲を収納した倉庫で、溝などで区画されることが多く、正倉が建ち並ぶ敷地全体を正倉院と呼びます。

国家が最も重要視した施設で、各郡に設置されますが、国司の管轄下にありました。総柱式の高床式倉庫が主体で、側柱式の屋（おく）と呼ばれる収納施設もありました。壁の構造から、甲倉（校倉）板倉・土倉・丸木倉があり、屋根は、瓦葺・板葺・草葺がありますが、幡羅・榛沢郡家正倉からは、瓦葺のものは確認されていません。

郡庁^{ぐんちやう}

郡家の中核施設で、執務や儀式、饗宴などが行われました。多くの例では、一辺約 50m の敷地を有し、堀などで囲まれた中に正殿や脇殿などの建物が建てられました。広場があるのも特徴です。

館^{たち}

郡司や、国内を巡行する国司などの宿泊施設として用いられました。ここでは、饗宴も行われていたと考えられます。

厨家^{くりや}

郡家での饗宴の食膳や郡司など役人の食事を準備し、食料や食器を管理していました。

榛澤郡家の様相

榛澤郡家成立以前の状況⇒郡内において最有力の古墳が集中する。

5世紀末頃の四十塚古墳の成立以降、櫛挽台地北部の優位性が明確となる。

四十塚古墳⇒横剥板鋌留短甲、五鈴付鏡板など傑出した遺物群出土（5世紀末）

寅稻荷塚古墳⇒前方後円墳（前長 51m）、6世紀後半、お手長山古墳⇒帆立貝式古墳（全長 49.5m）6世紀末⇒内出八幡塚古墳（円墳 33m）7世紀前半、愛宕山古墳（方墳 37m）

土地利用の劇的变化

榛澤評家成立以前の櫛挽台地上は、郡内最有力の首長層の墳墓域⇒対応する集落は低地側

7世紀後半以降、突如として熊野遺跡が成立⇒初期榛澤評家

評家の成立とともに土地利用のあり方が劇的に変化することを示す絶好の事例

この時期、地方制度の大きな画期があったことは明確である。⇒7世紀第3四半期～第4四半期⇒大規模な遺構群と畿内産土師器の搬入

中宿遺跡、中宿遺跡、島護産泰神社一帯が榛澤郡家であったようだ



中宿遺跡(深谷市)





埼玉県指定史跡
なか じゆく こ がい そう こ ぐん あと
中宿古代倉庫群跡

所在地 岡部町大字宿中宿3294-2後
指定年月日 平成3年12月6日

中宿古代倉庫群跡は、宿所台地の北端部に位置し、平成3年3月～10月まで岡部町教育委員会により発掘調査が実施された。調査された主要な建物は新倉跡建物跡(竪堀、溜池北土庫石基、竪穴住居跡)群、土庫等がある。出土した遺物は新倉基・土庫基が中心となる。

これらのうち、遺跡の性格を最も特徴づけるものとして新倉跡建物跡があげられる。いずれも竪柱式(柱を基礎柱状に配する方式)の高床倉庫跡が主跡となり、7世紀末～8世紀初にかけての奈良時代を中心とした約100年間に建て替えられたから使用されていたものと推定される。その規模は最も大きい1号建物跡で床面積50坪ほどあり、埼玉県内において発見された建物跡の中では最大規模を誇る。このような規模の建物跡は通常の集落跡から発見された例はなく、公的な施設に付属すると思われるが最も重要である。

鎌倉の埼玉等は奈良時代においては武蔵国と呼ばれ、鹿家、神奈川の一部分を含めた地域から一つの行政単位となっていたが、このもとに以て郡が設置されており、岡部町跡は「赤澤郡」と呼ばれていたことが宿所の古文書等により明らかになっている。

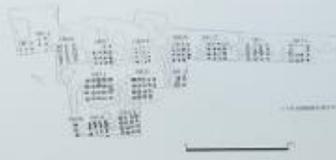
中宿古代倉庫群跡はこの「赤澤郡」の住所(郡治)の一部であろうと推定されており、郡内には郡令(郡の最高責任者である郡司が政治を執る場所)・税屋(食料の管理及び調理施設)・館(郡司の宿舎)等の施設が立っている可能性が高い。さらに建物の周囲には和銅開元が出土した為山遺跡や古代の瓦が出土した開運跡、奈良・平安時代の大墓群である野野、白山遺跡などがあり、これらとの関係を探ることにより、「古代都市」の景観が次第に明らかになるであろう。

平成4年3月

岡部町教育委員会



中宿古代倉庫群跡の航空写真



中宿古代倉庫群跡全跡図(平成4年3月～10月 発掘調査)



参考図：復元された郡制の迹(岡部郡 郡司と大連の復元図) 新倉遺跡「古代の住所」より (小野 誠 作成)

埼玉県指定史跡

なか じゆく こ だい そう こ ぐん あと
中宿古代倉庫群跡

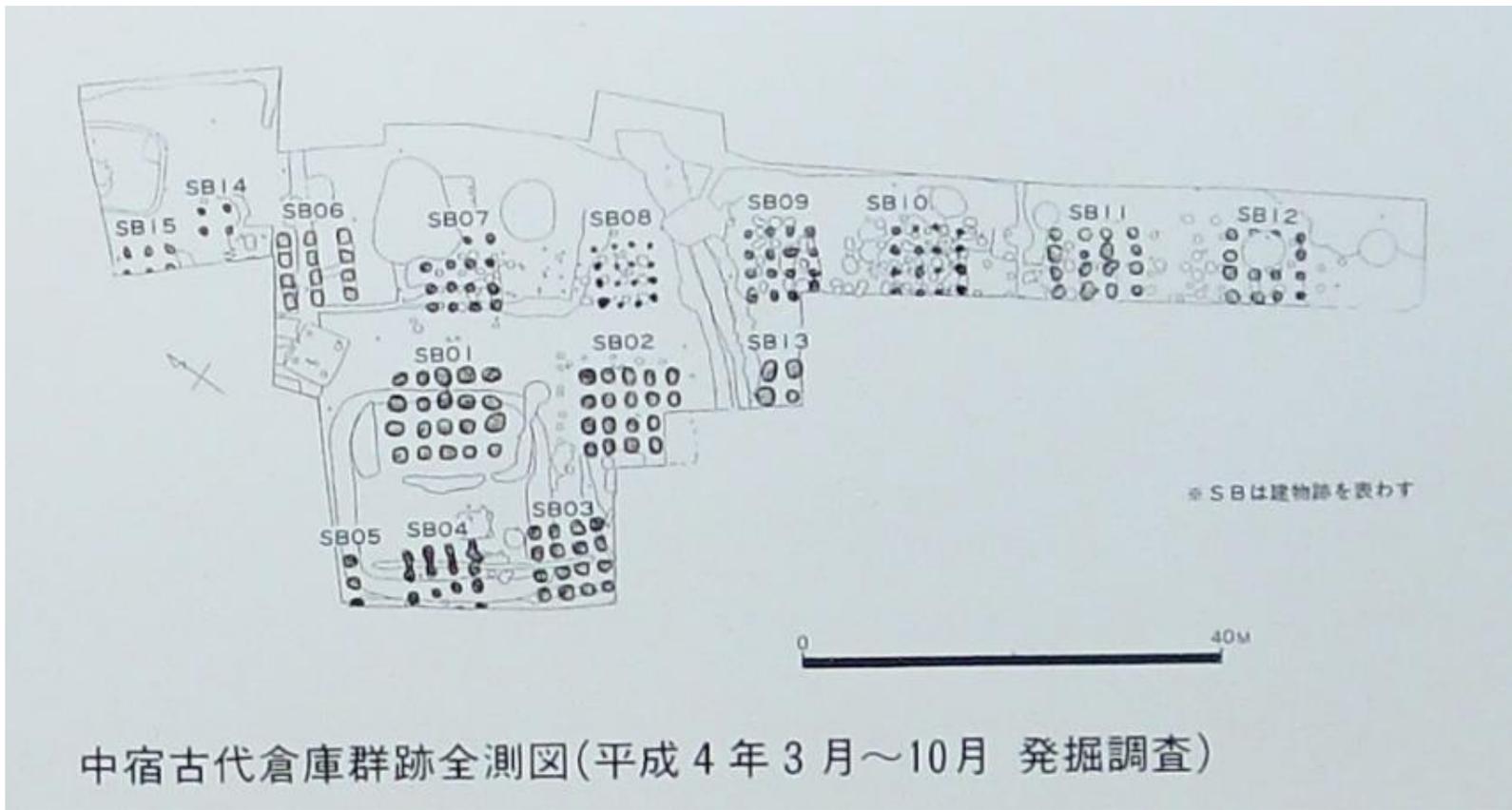
所在地 岡部町大字岡字中宿3286～2他
指定年月日 平成3年12月6日

中宿古代倉庫群跡は、櫛挽台地の先端部に位置し、平成3年3月～10月まで岡部町教育委員会により発掘調査が実施された。調査された主要な遺構は掘立柱建物跡16棟、溜池状土壇5基、竪穴住居跡13軒、大溝等がある。出土した遺物は須恵器・土師器が中心となる。

これらのうち、遺跡の性格を最も特徴づけるものとして掘立柱建物跡があげられる。いずれも総柱式(柱を基盤目状に配置する方式)の高床倉庫跡が主体となり、7世紀末～8世紀代にかけての奈良時代を中心とした約100年間に建て替えされながら使用されていたものと推定される。その規模は最も大きい1号建物跡で床面積567㎡をはかり、埼玉県内において発見された建物跡の中では最大規模を有する。このような規模の建物跡は通常の集落跡から発見された例はなく、公的な施設に付属すると考えるのが最も妥当であろう。

現在の埼玉県は奈良時代においては武蔵国と呼ばれ、東京、神奈川の一部を含めた地域がひとつの行政単位となっていたが、このもとには21の郡が設置されており、岡部町周辺は「榛澤郡」と呼ばれていたことが当時の古文書等により明らかになっている。

中宿古代倉庫群跡はこの「榛澤郡」の役所(郡衙)の一部であろうと推定されており、周囲には郡庁(郡の最高責任者である郡司が政治を執る場所)・厨屋(食料の管理及び調理施設)・館(郡司の宿舎)等の諸施設が広がっている可能性が高い。さらに遺跡の周辺には和銅開珎が出土した内出遺跡や古代の瓦が出土した岡遺跡、奈良・平安時代の大集落である熊野、白山遺跡などがあり、これらとの関係を調べることにより、「古代都市」の景観が次第に明らかになるであろう。









Aが埼玉県指定史跡の中宿古代倉庫群跡、Bは古代復元倉庫(板葺造り)、Cが古代復元倉庫(校葺造り)、Dは中宿歴史公園



これが中宿古代倉庫群跡





左手が古代復元倉庫(板葺造り)、右手は古代復元倉庫(校葺造り)



古代復元倉庫(板蔵造り)



古代復元倉庫(校蔵造り)



(埼玉県指定史跡)

中宿古代倉庫群跡

この復元倉庫は、平成3年の発掘調査により発見された16棟の建物跡のうち、最も規模の大きい1号建物と2号建物を復元したものです。実際の遺跡では柱穴や基礎の部分だけが発見されたわけですが、復元作業は、当時の歴史的背景や古代の建築様式を参考にしています。

1号建物は、板倉造りといわれ、変形八角形断面の木材を組み重ねたもので、4隅を繋ぎに組み合わせているために、非常に丈夫なつくりとなっています。

2号建物は板倉造りといわれ、当時一般的に用いられた工法で、柱の間に横枅を落とし込み壁を作り出しています。有名な奈良の東大寺正倉院は、この2つの工法を用いて建てられています。 平成6年3月



2号建物跡と発掘調査に参加した方々



1号建物跡平面図



2号建物跡復元設計図



1号建物跡復元設計図



岡部町

(埼玉県指定史跡)

中宿古代倉庫群跡

この復元倉庫は、平成3年の発掘調査により発見された16棟の建物跡のうち、最も規模の大きい1号建物と2号建物を復元したものです。実際の遺跡では柱穴や基礎の部分だけが発見されたわけですが、復元作業は、当時の歴史的背景や古代の建築技術を参考に実施しました。

1号建物は、板倉造りといい、空形六角形断面の木材を積み重ねたもので、4隅を堅固に組み合わせているために、非常に頑丈なつくりとなっています。

2号建物は板倉造りといい、当時一般的に用いられた工法で、柱の間に厚板を落とし込み壁を作り出しています。

有名な奈良の東大寺正倉院は、この2つの工法を用いて建てられています。

平成8年3月



2号建物跡と発掘調査に参加した方々

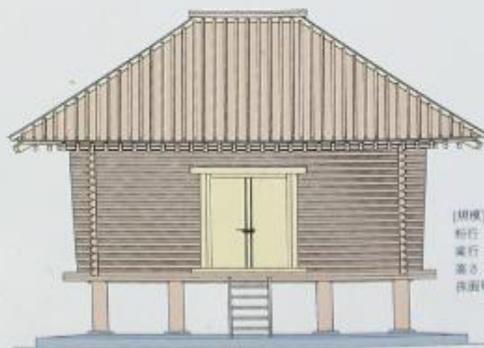


1号建物跡実測図



2号建物跡復元設計図

[規模]
桁行 4間 (7.8m)
梁行 3間 (6.75m)
高さ 7.1m
床面積 52.65㎡



1号建物跡復元設計図

[規模]
桁行 4間 (6.4m)
梁行 3間 (6.75m)
高さ 9.2m
床面積 56.7㎡



国 部 町

手前が古代復元倉庫(板蔵造り)



古代復元倉庫(板蔵造り)



古代復元倉庫(校蔵造り)



手前が古代復元倉庫(校蔵造り)



手前が古代復元倉庫(枝蔵造り)







中宿歴史公園



中宿歴史公園から正倉群を見る











中宿遺跡のガイダンス施設もあるようだ



この前方にある



これは「道の駅おかべ」の販売所/屋根の形が目を引く



これは「道の駅おかべ」の資料館/六角屋根が目を引く



正倉の成立と変遷⇒中宿遺跡の概要

1991年に発掘調査が開始。⇒低地を望む櫛挽台地末端に位置する。

斜面地に整然と3列に並んだ倉庫群が発見⇒埼玉県初の正倉遺構として、注目を浴びる。
倉庫群の変遷は大きくⅣ期にわけられる。

Ⅰ期⇒7世紀末～8世紀初頭、Ⅱ期⇒8世紀前半、Ⅲ期⇒8世紀中頃、Ⅳ期⇒8世紀後半
Ⅲ期に倉庫群の大型化が進行し、棟数も増加、Ⅳ期には礎石建物に変化⇒全国的な傾向。
掘立柱建物から礎石建物へ

正倉は、律令国家（財政）の象徴。不動穀倉、動用穀倉、顯倉。存続も長い

（不動穀倉）⇒穀を毎年収納、満倉になると、鍵をかける。鍵は、国で保管。⇒地方の裁量では使用できない倉。

⇒10世紀前半頃終焉⇒幡羅遺跡も同様、平将門の乱に関係？⇒上野国府襲撃、国印と正倉の鑑（鍵）を略奪。

滝下河川跡⇒福川水系、運河的機能を有す河川跡

中宿遺跡周辺では、大規模な切り土、盛り土が行われている。整地層確認⇒斜面地における倉庫群の造営⇒大規模土木工事の存在

参考ホームページ

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3i-aid/kofun/saitama/63_okbe/nakaiuku.html

<http://blog.goo.ne.jp/daidi/e/e1043312732f979e217c5802597a85b7>

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/hist/s5/nakaiuku.htm>

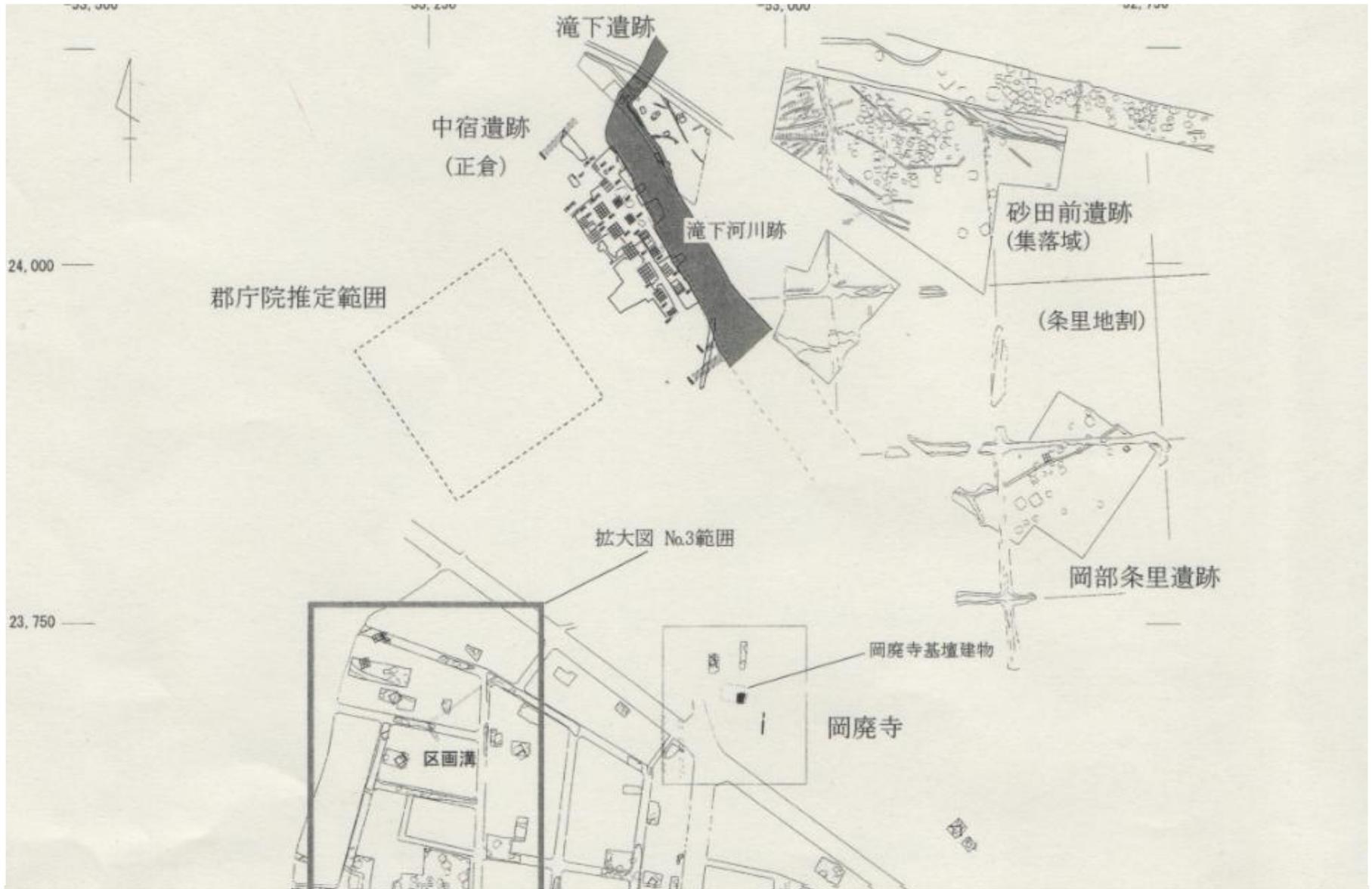


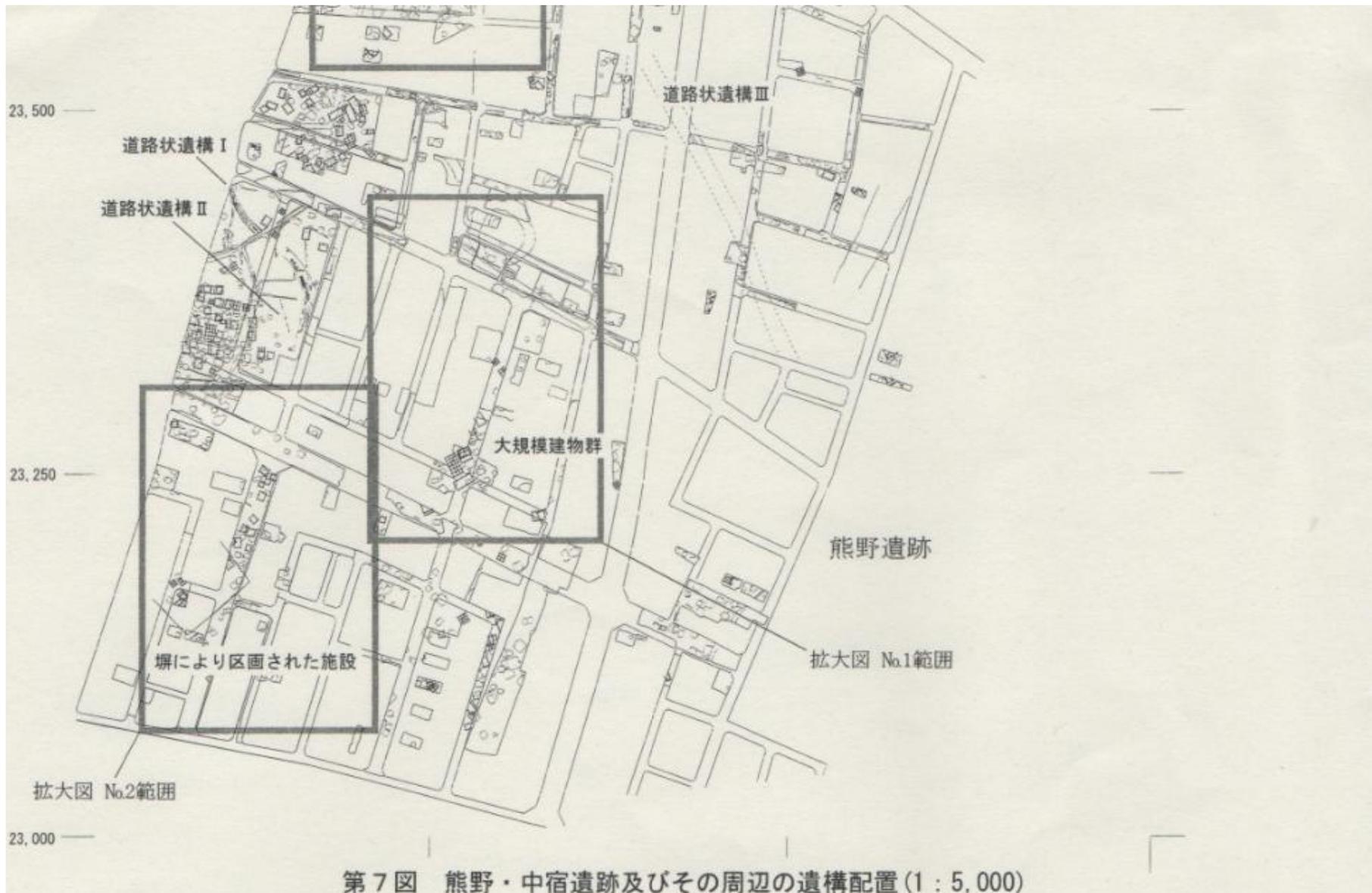
岡遺跡(深谷市)、岡麿寺(深谷市)

島護産泰神社の下(南側)に位置する



第4図 榊沢郡家周辺の地形と遺跡群(1/20,000)





岡遺跡、岡廃寺部分の拡大図



岡廃寺の概要

郡家と寺はセット⇒幡羅遺跡、西別府廃寺（熊谷市）

郡司層の氏寺的性格か？

基壇跡の調査⇒伽藍配置は現在のところ不明。⇒（寺）墨書土器、（榛）刻印瓦

軒丸瓦の共通性⇒北武蔵の寺院は、8世紀前半代において共通の意匠を採用（金草窯系複弁八葉軒丸瓦）⇒郡を越えた結合。

寺院の存続時期には不明な点が多い。⇒8世紀前半に寺院が建立、9世紀代に衰退

島護産泰神社から南側を見る/前方が岡遺跡、岡廃寺のエリア



西側に回ってみる/左手方向がそのエリア



左手方向がそのエリア



ここは上記「岡遺跡、岡麿寺部分の拡大図」にある交差点/正面から右手のエリアも岡遺跡に含まれるようだ



交差点を渡って正面右手にそのエリアを見たところ



少し右手を見る



前方が岡遺跡、岡廃寺の発掘エリア



少し左手を見る



アップで見る/正面の木々の後方が島護産泰神社



島護産泰神社(深谷市)
しまもりさんたいじんじゃ

ここは島護産泰神社



右手を見る



左手を見る



振り返って見る/前方が岡遺跡、岡廃寺のエリア



このエリアは榛澤郡衙の郡庁が置かれていたところではないかという





しまもりさんたい 島護産泰神社

当社の創立年代は明らかでないが、旧榛沢郡内の開拓が、当社の加護により進められた為、郡内の各村の信仰が厚くなり、総鎮守といわれるようになったと伝えられている。この為に当社の再建及び修築等は、郡内各村からの寄付によりなされた。祭神は瓊々杵尊・木之花咲夜姫命という。

当社を島護（しまもり）とうご等とも読まれている）と称するのは、この地方が利根川のしばしばの氾濫により、ことに現在の深谷市北部に位置する南西島、北西島、大塚島、内ヶ島、高島、矢島、血洗島、伊勢島、横瀬、中瀬の地名をもつ地域（四瀬八島）は、常に被害を受けたため、当社をこれらの守護神として信仰したことによると伝えられている。

また、当社は、安産の神として遠近より、信仰者の参拝が多く、この際には、底の抜けた柄杓を奉納することでも有名である。四月一〇日の春祭には、里神楽が奉納される。

平成三年三月

埼玉県

岡部町

前方に社殿が見える



拜殿





右手が拝殿、左手は本殿



手水舎



神楽殿



境内社



さまざまな石造物





社殿から振り返って見る



参考ホームページ

<http://glassesmaiden.blog81.fc2.com/blog-entry-1914.html>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/kofun2-hp/saifuokab.htm>

熊野遺跡(深谷市)

文化財詳細情報

閉じる

遺跡番号	63-017
遺跡名	熊野遺跡
よみがな	くまのいせき
所在地	深谷市岡部岡千手堂、熊野、内出、新田 外
種別	
時代	
立地	台地上
遺構概要	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、大溝
遺物概要	土師器、須恵器、埴輪、紡錘車、鉄器、銅製帯金具
備考	県内でも最大級の奈良・平安時代の集落址

発掘調査記録

リンクをクリックすると発掘調査詳細情報のページを開きます。

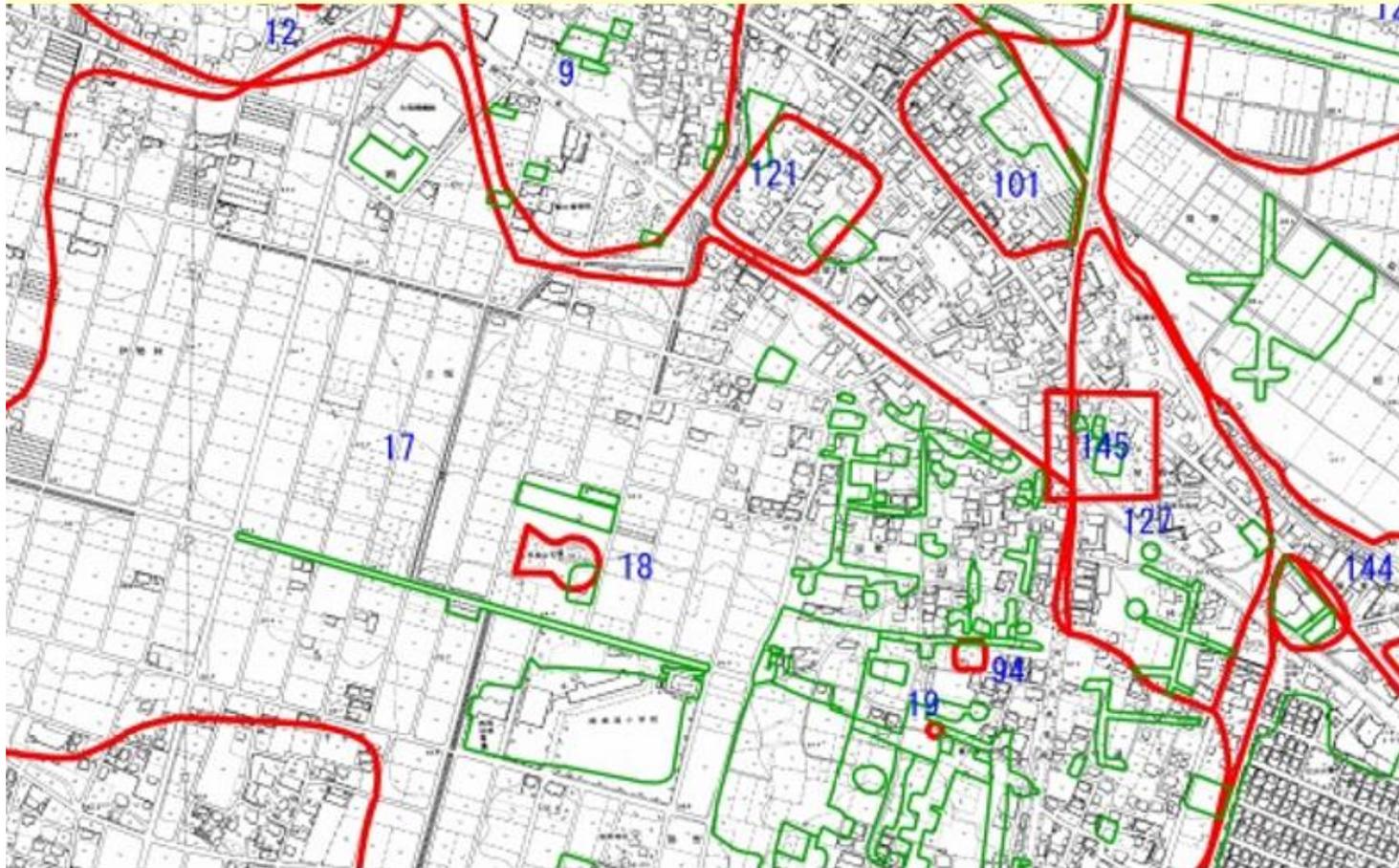
- 1995年06月01日～1995年07月31日
- 1997年08月28日～1997年09月19日 (第114次調査)
- 1997年10月27日～1997年11月20日
- 1999年04月26日～1999年05月31日
- 2006年04月11日～2006年04月26日

下の赤印内の太線で囲まれたエリアが熊野遺跡の一部のようだ



遺跡マップ/17が熊野遺跡のエリア/ちなみに101は中宿遺跡、127は岡遺跡、、145は岡廃寺のエリア

深谷市(旧岡部町)



正面前方の木々の辺りが遺跡マップの18のお手長山古墳



写真はその左手17のエリアで熊野遺跡の一部のようだ



今は全面畑地となっている

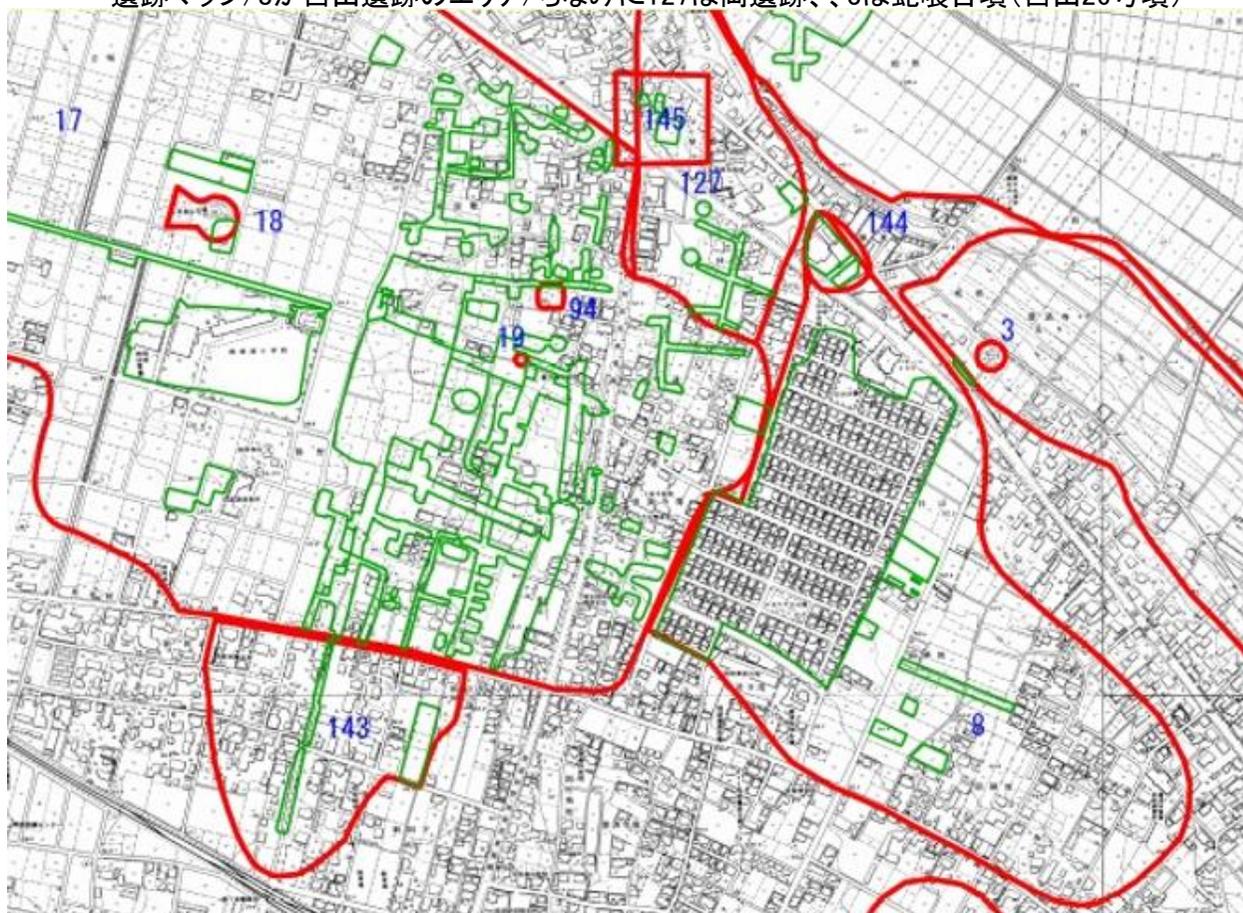


振り返って見ると前方は岡部西小学校



白山遺跡(深谷市)

遺跡マップ/8が白山遺跡のエリア/ちなみに127は岡遺跡、3は蛇喰古墳(白山26号墳)



蛇喰古墳の付近から前方の木々の辺りの島護産泰神社を見る/左手の方向が白山遺跡



正面の方向に白山遺跡が広がっていたようだ

